

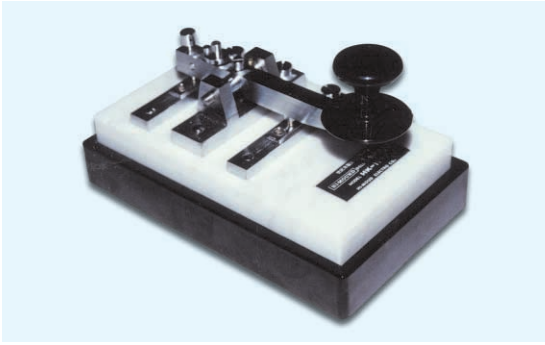


写真25 HI-MOUND大理石台HK-1999型電鍵(無線用)
前世紀最後のミレニアム大理石台電鍵。写真20に示す高塚無線時代のリバイバルともいえるもので、筆者のコメントを参考に限定製作されたもの。基本構造は大理石台の上に甲種単流電鍵をマウントしたもので、機構部はクローム・メッキが施されている。



写真26 HI-MOUND樹脂台HK-1999Z型電鍵(無線用)
前世紀最後のミレニアム樹脂台電鍵で、現行品種。いわば写真25に示す姉妹編にあたるもので、機構部は甲種単流電鍵のものを流用し、支柱部は旧HK-1Z, HK-1S, HK-3, HK-8のものを流用し、樹脂台の上にコンパクトにマウントされている。



写真27 HI-MOUND新型HK-1S電鍵(無線用)
銀接点がφ6mmと比較的太く、大電流のキーイングが可能で、発光信号用としても使用できる。大理石台の下は黒色モールド台を使用している。



写真28 HI-MOUND HK-1Z型電鍵(無線用)
銀接点がφ6mmと比較的太く、前部上接点の取り外しと調整が可能な構造となっている。本品の大理石の下は後期モデルで、黒色ABS樹脂を使用している(前期モデルは写真27同様、黒色モールド台を使用)。接点が大きいため大電流のキーイングが可能で、発光信号用としても使用できる。



写真29 HI-MOUND HK-8型/NKY-4電鍵(無線用)
銀接点がφ2mmと比較的細く、歯切れのよいキーイングができる。海上自衛隊仕様NKY-4型に相当し、大理石台のズシッとした重量感があり、かつての海岸局、船舶局などの標準装備品となっていた。



写真30 SWALLOW 電通精機製旧型HK-1S型電鍵(無線用)
写真27の旧型で、銀接点がφ6mmと比較的太く、大電流のキーイングが可能で、発光信号用としても使用できる。大理石台の下は黒色モールド台を使用し、アクリル防塵カバーの形状が新型と異なっている。